

心奥探訪

不器用な教育者が次代へ託す^こ想^い

2024年10月末日。

駅前の雑踏から一本入ったビルの一室。

日も落ち、秋の涼しさの中『さようなら』と中学生達が教室を後にする。

「さようなら、気をつけて」

優しく声をかけながら子ども達を見守る眼差し。

個人塾を経営しているその人は、お待たせしましたと振り返った。

穏やかでにこやかな表情はいつもと変わらない。

そんな彼が移転前最後の授業を終え、どんな想いを抱いているのか？

そして子ども達を見守る瞳に込められた願いとは？

そこには次代の若者達を^よ嘉したかのような静かな想いが揺らめいていた。

「まだまだ実感はないですね。」

先代から受け継ぎ、経営してきた個人塾。

約40年の歴史を歩んできたその場所は老朽化も激しかった。

そんな中で再会した中学の同級生。

その彼もまた同じ地区で個人塾を経営していたという。

同じ業界で似た境遇だったからか、それぞれの個人塾を合併するという案はとんとん拍子で進み、それまでの場所で行う最後の授業がいま終わった。

実感を感じられないと話しつつ、彼は自身も通っていた教室を見渡した。

彼が中学3年生の時、たった1年だけ通った塾。

その時に苦手な数学を担当していた講師が塾長だったという。

そんな彼が再びここに訪れるようになるのは大学合格を伝えにきた時。

縁が再び繋がり、塾講師のアルバイトとして大学卒業まで身を寄せることとなった。

「苦手意識がありました」

教えることは好きだったという彼だが、人前に立つことには苦手意識があったという。それでも当時は年も近いこともあり、生徒に恵まれ慕われていたと語る。

そんな中、大学生活は順風満帆とは言えず2度の留年で就活は失敗。

目標を持ってないまま20代の頃はほぼフリーターのような生活をしていたという。

「目標もなかったし、年齢的な危機感だけは感じてましたね」

当時を振り返り、もう少し何かできたのではないかという想いと、

この数年があったから今の自分があるのかもと彼は語っている。

30歳を過ぎ、正社員として塾講師を選んだ彼。

それまでも転々と色んなところで塾講師のアルバイトを続けていた彼にとっては必然だったのかもしれない。

振り返れば楽しいこともたくさんあったと話すが、

そこでの約5年は苦悩の期間でもあったという。

「まじめにやればやるほど離れていくんですよ」

子ども達の反応がこわかったと語る彼。

眠そうな生徒やつまらなさそうな表情を浮かべる生徒。

特に自分の受け持ち以外の授業の場合、元の講師との比較もしてしまっていたという。

授業がうまくできない・・・

子ども達が喜ぶような面白いことができない・・・

子ども達の気持ちもわかるからこそ、だからこそそれがしんどかった。

向いてないのかもしれない。

理想と現実のギャップを感じた彼はそこを後にした。

この頃から独立心が湧いてきたという彼が次に選択したのが、
フランチャイス式の塾運営。

今度は教室長という立場での関わり方だったという。

しかし、いわゆるブラック体質の環境もありわずか8ヶ月で幕を閉じることとなった。

当時、まだ付き合っている段階だった妻にも心配されながら走り続けた8ヶ月だったが、
彼自身が再び気づき掴んだものがあった。

「授業面白いやん」

現場から一時離れたこと^{（おとろい）}で気づいた自分の本音。

それからは一人の塾講師として働きながら、

自分自身の作りたい場所を目指して進んでいったという。

そんな彼に転機が訪れたのは2017年。
自身の塾を持つべく、お金も準備しながら、
まさしく後は契約のみという段階だった。

ふとした想いから、かつてお世話になった塾長に報告に行ったという彼。
現状を伝え、挨拶程度のはずだった彼に投げかけられた言葉は

『それなら、うちでやったらええやん』

そこで彼は一人の塾講師として

そして経営者として学びながら、やがて塾長へと就任することとなった。

「中学の一年しか教わってないけど、恩師なんでしょうね」

ふっと笑うその表情からは不思議な縁を面白がる少年っぽさと

その裏にある多大なる感謝を滲ませた等身大の彼を感じさせる。

次のステップに向かって、不安を感じながらも

挑戦するドキドキも感じているという彼が自身を振り返り自分の塾生達へ

そして子ども達へ伝えたい想い。

「やりたいことをする為にも 今を真剣に」

それは彼自身が歩んだ失敗から学び得たことかもしれない。

それは子どもからすれば面白いと喜ぶようなことではないのかもしれない。

けれどその言葉にはずっと子ども達と向き合ってきた不器用な男の

直向きな優しさが詰め込まれている。

夢や目標を見つけるサポートをしていきたいと語る彼が

これから創り出す新しい場所。

勉強を通じて、知識を身につける環境。

それはきつと多くの子ども達が、自分らしく生きていく為の力を身につける場所になるだろう。

数字だけではない知識を教え、人を育む場所として

そんな一教育者は優しい笑みを携えて、今日も子ども達の待つ教室へ足を運ぶ。